

一般社団法人LOCAL 第6回社員総会 記念講演

日本UNIXユーザ会
法林浩之

hourin@suplex.gr.jp

14年ぶり

2回目^の

招待講演

自己紹介

フリーランスエンジニア

日本UNIXユーザ会(jus)幹事

ITコミュニティ歴もうすぐ25年

私の動向は各種ソーシャルメディアで



すべて「**法林浩之**」で検索

日本UNIXユーザ会



日本におけるITコミュニティの草分け
設立31周年

Monthly News from jus



日本UNIXユーザ会の活動報告を
Software Designで連載中

講演内容

20年以上にわたり、
数々のIT系コミュニティや
イベントの運営に携わってきました。

その中で学んできたことや
心がけていることをお話しします。

そして、コミュニティを
継続していくために必要なことは
何なのかをお伝えします。

法林浩之的

ITコミュニティ

運営論

これまでの歩みを紹介

その中で気づいたことや
心がけていることを話す

あしあと



大阪大学 基礎工学部 情報工学科
(現:情報科学科)にて
UNIXとインターネットに出会う
(1988年)

まだインターネットでなく**JUNET**

JUNETにつながっている
組織は少数(当方で約200)

UNIXが使える学科も少数

今にして思えば**恵まれていた**



ネットニュースの常連投稿者になる
自身初のSNS利用(?)



さだまさしメーリングリスト(1989-)
自身初のIT(を使った)コミュニティ運営



UNIX Fairのスタッフを務める(1989-1991)
自身初のITイベントスタッフ
jusの活動に参加

就職で東京へ行くと
同時にjus幹事に(1992年)

自身初のITコミュニティ運営

先輩幹事たちと一緒に
勉強会や展示会などを運営

オープンソースまつり (1999-2001)



日本のオープンソースコミュニティが
一堂に会した最初の展示会

これを契機に
IT系イベントの
運営と司会を
数多く担当するように

Internet Week (1997-)



インターネットの管理・運用系
エンジニア向けのカンファレンス
11/18-21(火-金) 富士ソフトアキバプラザ

関西オープンフォーラム(2002-)



関西のコミュニティ/企業による展示会
ステージと会場内ツアーを担当
11/7-8(金土) 大阪南港ATC

Lightweight Languageイベント (2003-)



プログラマー向けイベント
運営の**まとめ役**を担当
8/23(土) 日本科学未来館ほか

jus研究会JAPAN TOUR (2007-)

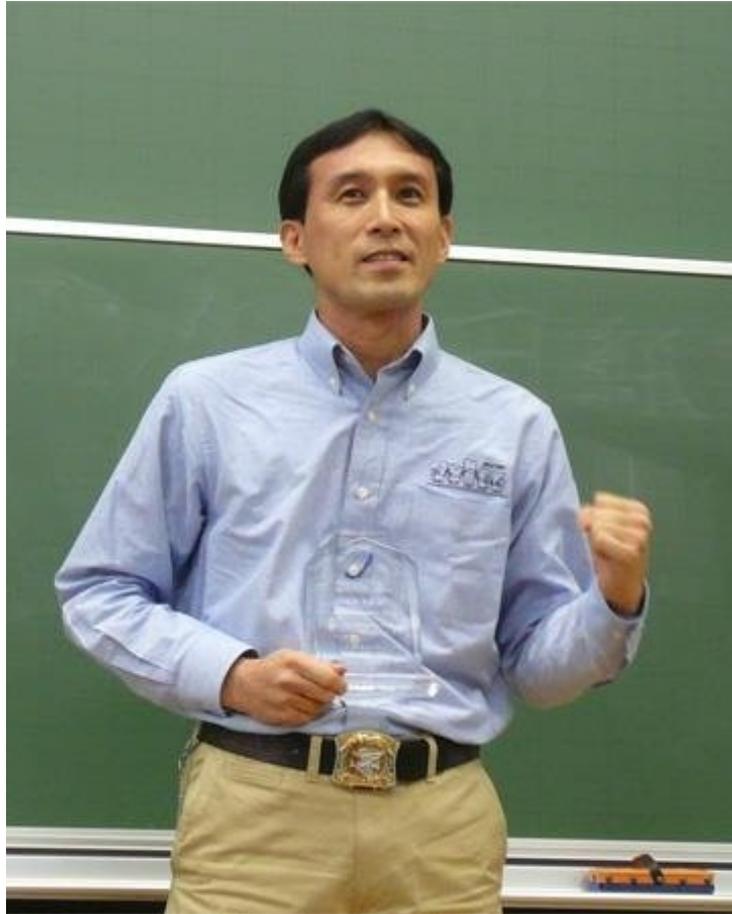


OSCなどの場を借りて
全国各地で発表者と対戦
山下達郎並みに全作業を担当

TechLION (2011-)



ライブハウスで飲みながら聞いてもらう
ITエンジニア向けトークライブ
9/25(木) 六本木スーパーデラックス



日本OSS
貢献者賞(2012)



楽天テクノロジー
アワード(2013)

活動の中で

気づいたことや

心がけていること

他団体との
積極的な交流



jusの活動の大半は
他団体との合同イベント

UNIXの流行(1980年代)

インターネットの流行(1990年前後)

オープンソースの流行(2000年前後)

Webプログラミングの流行
(2000年代)

UNIXの情報交換の場が欲しい!

→それjusで

インターネットの情報交換(以下同文)

→それjusで

オープンソースの(以下同文)

→それjusで

Webプログラミングの(以下同文)

→それjusで

コミュニティは
作りやすくなったが
全体的に活動が
内部にこもる傾向がある

アウェイよりホームの方が楽？

ツールごとにコミュニティがあるから？

人はアウェイで

成長する

内にこもっていると視野が狭まる
違う世界観/価値観と触れることで
見聞を広めてほしい

jusではLLやKOFなど

LOCALの場合は
OSCなどの地元開催

名前は

気にしない

団体名に技術用語があると
それを理由に活動内容を
制限してしまう人が多いが
そういうのを

気にしてはいけない

jusの場合

何らかの形で

UNIX的なものと

関連があれば活動対象

Japan **UNIX** Society

jus

日本UNIXユーザ会

Japan **Users'** Society

jus

日本ユーザ会

石鍋亭



石鍋の
ジンギスカンも
あるが
みんなの写真は
ニラタワーばかり

でも問題には
なっていない

名前を気にするより

実績を気にしよう

定義を

追求しない

エンジニアは定義したがる

整然としたルールに従って
物事を進められる方が
気持ちいいから(?)

しかし

コミュニティ活動においては

整然としたルールでは

説明できない事象が多い

コミュニティ活動は
PCではなく人間が相手

人間は理屈通りには
動かない

定義を追求して

苦勞した例

関西オープンフォーラム



関西オープンソース+フリーウェア
(2002-2003)

関西オープンソース+関西コミュニティ大決戦
(2004-2012)

関西オープンフォーラム(2013-)

最初からOSS以外の団体も
参加してもらうことを想定して
「関西オープンソース+フリーウェア」

しかしOSSと似て非なるものを
ごっちゃにするとは何事だと
外部から批判され
対象を厳密に設定しようとして泥沼に

2004年から
運営団体「関西オープンフォーラム」
イベント名「関西オープンソース
＋関西コミュニティ大決戦」

イベント名が長すぎて噛むのでw
2013年から
「関西オープンフォーラム」

現在ではOSSに限らず
無数のコミュニティが活動し
KOFにもOSCにも集まっている

KOFが目指したことは
正しかったと
胸を張って言いたい

定義を追求

しななかった例

Lightweight Languageイベント



プログラマー向けイベント
運営のまとめ役を担当

「LLとは何か」を
細かく定義しない

Lightweight Languageとは

より少ない「**脳力**」で

プログラミングできる言語

(まつもとゆきひろ談)

「より少ない」は
相対的な概念

より良いプログラミング
を目指す活動と考えれば
言語仕様はいつでもよい

もっといいのは
団体名/イベント名に
技術用語を使わない

LOCAL

WIDEプロジェクト

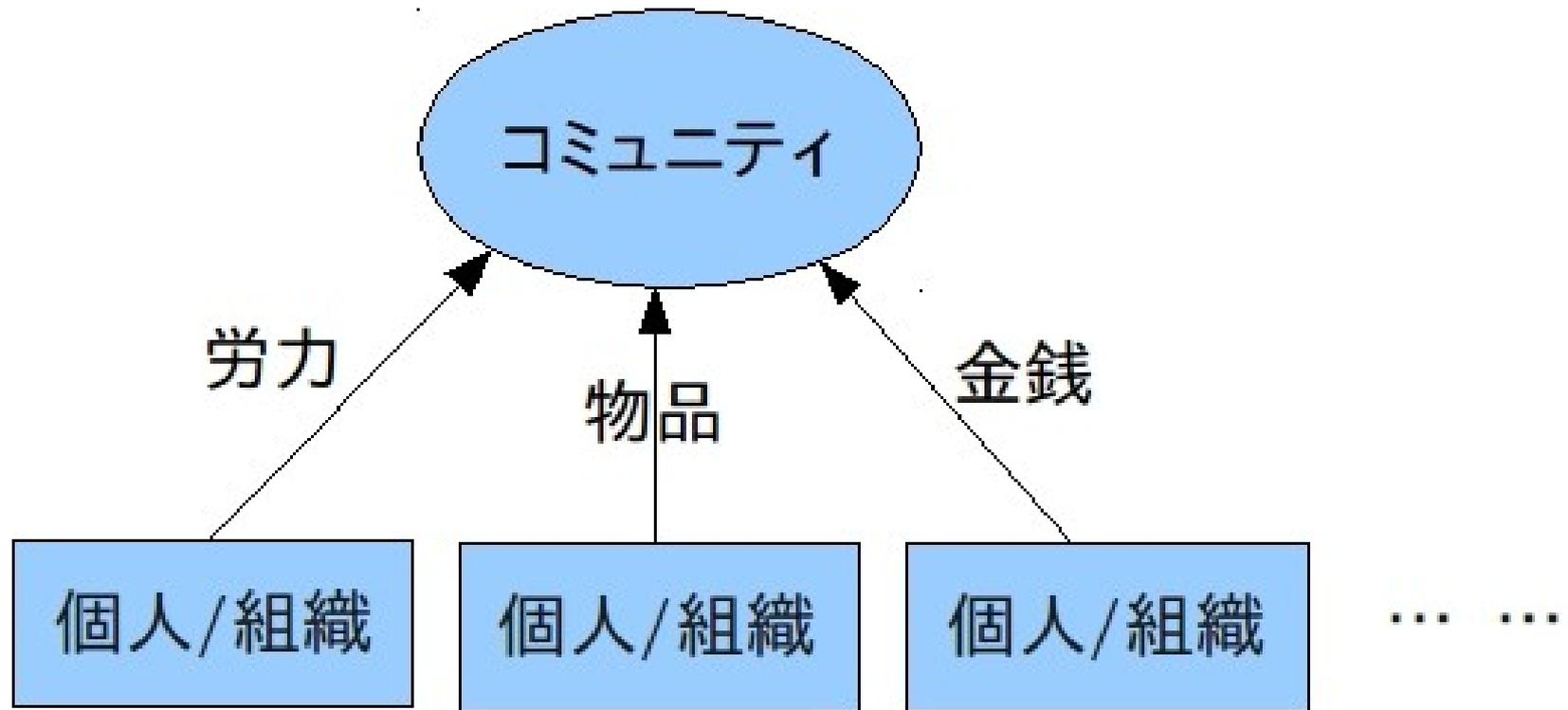
Future Sync

まっちゃんほげほげ

持ち寄りと

自助精神

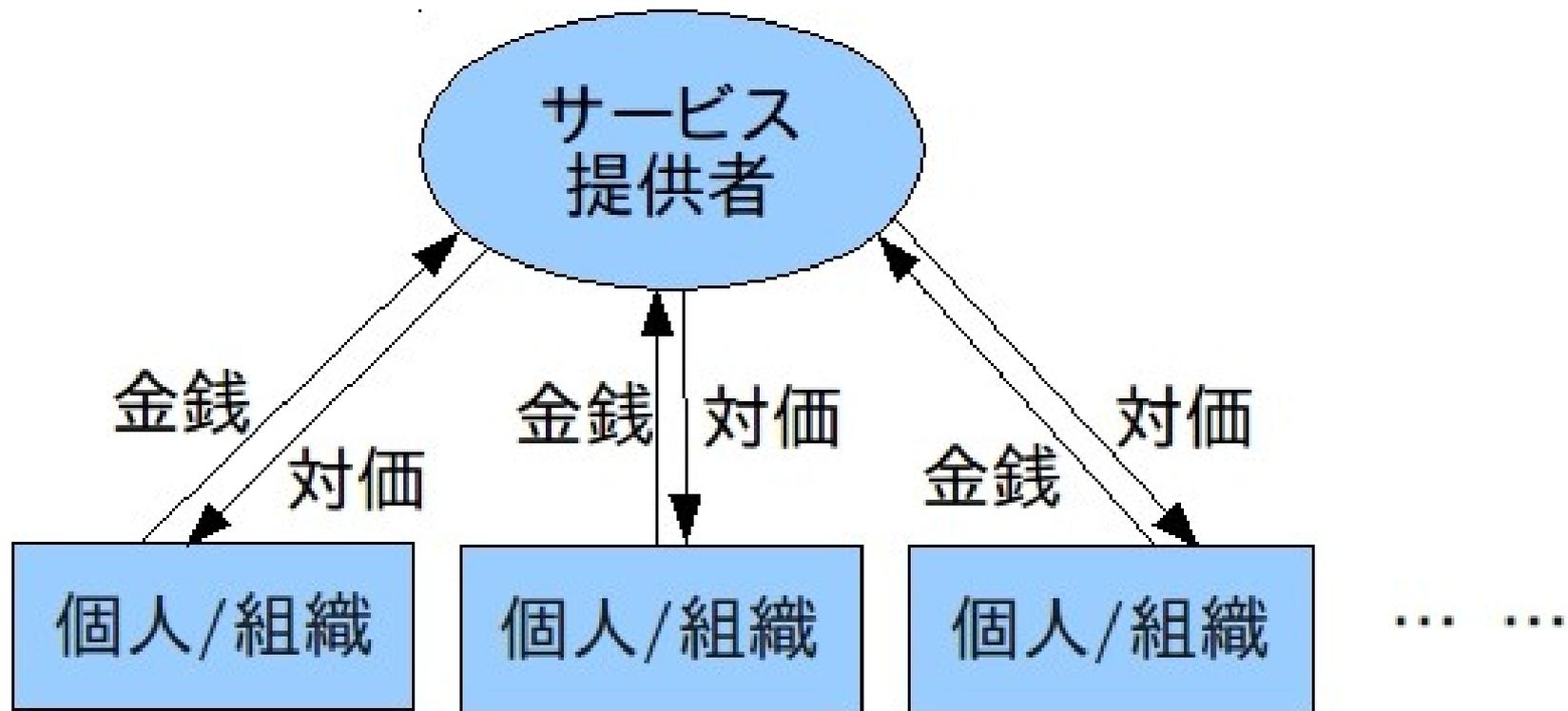
コミュニティを支える構図



各自が人/モノ/金を持ち寄って運営

持ち寄ったものはそこで消費
提供者に対価を払うことを目的としない

企業のサービスを支える構図



客が金を払って対価(サービスなど)を享受

コミュニティとは構図が異なる

運営者も参加者も

構図の違いを

理解しておきたい

(参加者には伝わりにくい)

JUNETジンギスカンパーティー(J2) (1989-)



fjでの議論から
ジンギスカン実演の場として開始
今でもITコミュニティの交流会として継続

「J2スピリット」

自主運営なので

各自進んで

仕事を引き受けるべし

「言い出しっぺの法則」

昔のインターネットコミュニティ
では言い出した人が
担当する掟があった

さだまさしMLは
その掟に従い管理人を担当

今にして思えば
若い頃にこういう習慣を
身につけておいてよかった

これからの人に
どう伝えていけばいいかは
よくわからない

入口では歓迎して、
あとは自分でやらせる？

粘り強く

続ける

法林さんはなぜ
燃え尽きないのか

さだまさしML (1989-)

jus (1992-)

Internet Week (2000-)

KOF (2002-)

LLイベント (2003-)

jus研究会JAPAN TOUR (2007-)

TechLION (2011-)

コミュニティやイベントにも
構築と運用がある

構築は瞬発力
運用は持久力

各自の適性に応じて
やれることをやってほしい

継続は

マナーと

闘い

マンネリ防止には
変化を持たせる

毎年やっているイベントでも

会場を変えるとか

形態を変えるとか

新しい企画を取り入れるとか



軽量プログラミング言語と共に拓く、新たな未来へ

Lightweight Language Future

LLイベントは毎年
名称を変えている

ミュージシャンの
アルバム製作と同様

イベントを作品と考え
良い試合を目指す

コミュニティを

継続するには

ひとつは新陳代謝

新しい人が入るとか
トップの交代とか

技術コミュニティの場合は
対象技術そのものの盛衰が
あるので難しい面も

もうひとつは 当事者意識とか帰属意識

コミュニティを盛り上げるのは
メンバー個々の力

コミュニティの盛り上がりは
その心意気を持っている
人数に比例する

Ruby

JANOG

LOCAL

最後に

もうひとつ

エンジニアでなくても
技術コミュニティへの
貢献はできる

技術力と貢献力(?)は**無関係**

エンジニアが苦手な
こともたくさんある

異業種の経験も役に立つ

自分にできる貢献を考えて
実践してほしい

皆さんの力で

LOCALを

盛り上げてください

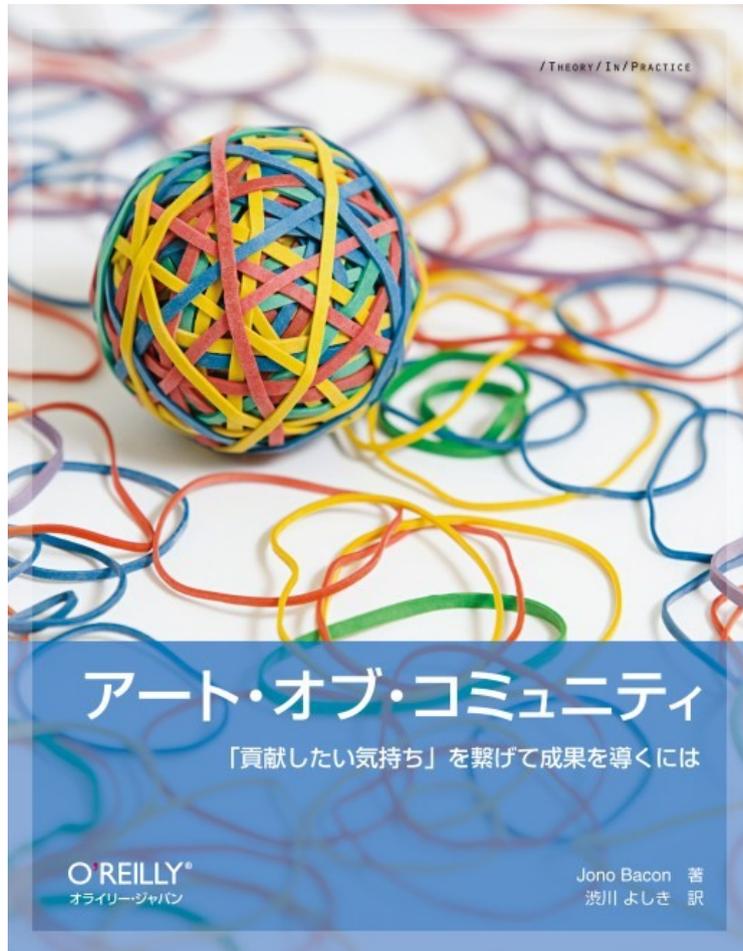
まとめ

法林浩之的 ITコミュニティ運営論

自分の活動の振り返り
その中で気づいたこと

人はアウェイで成長する
名前や定義は気にしない
持ち寄りと自助精神
粘り強く続ける
当事者意識

アート・オブ・コミュニティ



John Bacon著
渋川よしき訳
オライリー・ジャパン

ITコミュニティの運営
について書かれた本

法林浩之の FIGHTING TALKS



法林浩之の
FIGHTING TALKS
written by 法林浩之(日本UNIX ユーザ会)

旗揚げ戦
Departure

日本のIT業界では日々数多くの勉強会やイベントが行われているが、その舞台裏が語られることは少ない。本稿は、自らの半生をITイベント運営に捧げた、IT業界の「闘う男」が、イベントやトークについて語る連載である。

ひとつがTechLIONである。TechLIONはUSP研究所主催のイベントだが、私が頑張って盛り上げている

連載を始めるにあたり

USP MAGAZINEで連載中

質^ヒ疑^マ応答

ありがとうございました



ITコミュニティ界の「鉄人」を
目指してがんばります！